



京都タワー、オレンジに染まる

初の企画・認知症支援訴える

今年の世界アルツハイマー月間にあたり、「家族の会」本部は新しい取り組みを展開しました。

一つ目は、9月21日、JR京都駅前の京都タワーを認知症支援のシンボルカラー、オレンジに染めるライトアップ。午後6時半に点灯され、白いタワーが徐々にオレンジ色に染まり、7時過ぎには完全にオレンジに。幻想



タワーをバックにJR京都駅前でリーフレット配布

的な姿に大勢の市民や観光客が見上げ、写真撮影をしていました。毎日・朝日・京都新聞にカラー写真で紹介され、認知症理解を広める大きな活動となりました。二つ目は、京都駅前の電光掲示モニ

ターで、啓発メッセージを3日間提示。三つ目は、製薬会社の協力を得て新調した横断幕。本部事務局の会館に掲げるとともに、全国の支部にも配付し、統一行動で活躍しました。四つ目は、医師や本人・介護家族からのメッセージを伝えるDVDを作成し、各地の記念講演会で上映。「病気のこと、思いがわかる」と参加者にも好評でした。



▲点灯前のセレモニー
(写真左から早川一光顧問、高見国生代表、タワーマスコットキャラクターたわわちゃん)

点灯セレモニーには90名を超える人が参加



オレンジに染まった京都タワー

京都・東京の講演会紹介

各支部でも記念講演会が開かれています



講演、本人の思い、シンポジウム

谷向知医師は講演で、アルツハイマー病の診断基準が「ものを忘れる」ということから、生活障害としてとらえることが基準の第1位となったことを紹介しました。その生活障害への対応もわかりやすく話され、興味深く聞かせていただきました。

若年認知症本人の藤田和子さんは、「認知症の自分を理解してくれる人がたくさんいる場所が、私の過ごしたい場所」そして、「認知症の人がいて当たり

前と、地域の人に思ってほしい」と言います。誰でも認知症になる可能性があるという現実を見つめれば、他人ごとではない、私たちの願いではないでしょうか。

シンポジウムでは、「カフェ」「デイサービス」「つどい」の現状・役割が語られました。それぞれが有機的にバトンタッチし、つながることの重要性、行政も巻き込み社会を変えていく取り組みが始まっているとの報告で締めくくられました。

京都から発信された新しい動きへの報告に期待が膨らみました。 (京都府支部世話人 竹中織恵)



講演:箕岡真子氏

(東京大学大学院医療倫理学分野・客員研究員)

認知症になると、次第に「自分のことを自分で決める」と(自己決定) ができなくなり、「家族が代わりに決める」と(代理決定) になります。その際の自己決定と代理決定の「倫理的な違い」などをめぐり、倫理・法的な面から解説いただきました。

「私のホントの気持ちに耳を傾ける大切さ」を強調

した上で、「適切な代理判断」のため「事前指示書」(「私の4つの願い」)を提唱されました。「望む医療処置」「残された人生をどのようにしたいか」などを「自分が決めるができるうち」に明らかにするもので、併せて、定期的に書き直すなどの留意点が紹介されました。

認知症に伴い本人や家族等が必ず直面する課題だけに、大変参考となりました。

(東京都支部世話人 井田正夫)

写真特集
世界アルツハイマーデー

今年も列島をオレンジに染め 街頭でアピール

京都タワーがオレンジに染まった9月21日を中心にして、全支部が全国約120カ所で啓発リーフレットの配布を行いました。これには、2,000名を超える人々が参加。オレンジ色ののぼりを立て、新調した横断幕を広げ、オレンジ色のTシャツを着て行動しました。

参加者の中には、認知症のご本人、行政職員や介護専門職、製薬会社社員、子どもや学生など様々な立場の人がいました。

今年のリーフレット→



幅広い年齢層に配布
●北海道支部
15カ所で、80名が参加しました



盛岡市での集合写真
●岩手県支部
多くの方々にお手伝いいただき感謝



県内5カ所で街頭活動
●青森県支部
製薬会社の方や大学生もオレンジTシャツで配布



介護相談中●宮城県支部
仙台市の大型スーパーの入口で



地道に配布●秋田県支部
今年は、ご本人さんとエーザイのMRさんが手伝ってくださいました



北村山スーパーヤマザワ前行動●山形県支部
受けとってくれる人の表情に、理解が深まっている手ごたえを感じました



すごい数での街頭行動 写真に入りきません●福島県支部
県内参加者107名（うち行政、地域包括職員28名）



オレンジパワー全開!!
●茨城県支部
若い人の協力が輝いていました。「私にもください」に思わず嬉しくなりました



今年も秋晴れの観光地「那須塩原道の駅」で●栃木県支部
20歳の学生から78歳まで幅広い年齢層の参加。「ありがとう」と笑顔で手にとってくださる声が力をくれました



緊張から震える手で渡しながら一言●埼玉県支部
困っている人を見かけたら一声かけてあげてください



秋を彩るイベント、千葉駅頭で展開●千葉県支部
総勢31名。現役学生も介護家族も、製薬会社の方も世話を共に



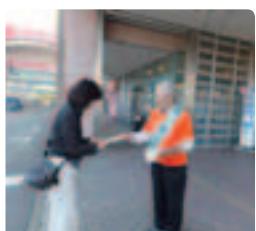
新宿駅西口で街頭活動を展開●東京都支部
製薬会社の若い人も加わり、行き交う人々に認知症問題をPR



オレンジ軍団集合!
●神奈川県支部
本人、家族、県、横浜市の職員一緒に行動。早くも市民から話しかけられました



ご本人も参加●山梨県支部
製薬会社の方を含め22名で配布しました



在宅介護中の方も忙しい中足を止めて●新潟県支部
今日はショートなのでと普段できない買い物にきた方が受け取ってくださいました



オレンジ色●富山県支部
山本きみ子さん（本人）もがんばりました



オレンジのユニフォーム着用
●福井県支部 鯖江市認知症サポート7名も応援に駆けつけ、共に街頭行動をショッピングセンターで実施



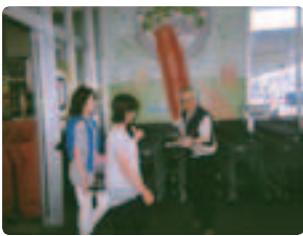
横断幕をもって●岐阜県支部
製薬会社からも参加で2カ所30名参加



静岡駅と健康まつりの2日間しっかりアピール!
●静岡県支部
エーザイ、ヤンセンファーマ、県職員と総勢30名。受け取る側の関心が深く気合が入りました



スーパーでの認知症啓発イベント!!●愛知県支部
子どもから年配者まで1000名を超える来場者で賑わいました



奥さん！ぜひ読んで！
●三重県支部
地域包括の方も手伝ってくれ4か所21名で、がんばりました



子どもたちもオレンジTシャツで大活躍●滋賀県支部
県内4カ所で会員を中心にキャラバンメイト、行政、事業所等が力を合わせました



会員のお子さんが大奮闘！
●大阪府支部
天王寺・池田駅とも、会員の飛入り応援のおまけも反映し、盛り上がりいました



天高く！声あげて！●奈良県支部
9/21秋晴れの奈良駅行基菩薩像前で、本人さんも含め15名の参加です



今年も頑張りました
●和歌山県支部
毎年お手伝いしてくれる和歌山のマスコット「そうちゃん」



スーパー・マーケット前で
●鳥取県支部
今年は横断幕をもってアピール



ご本人も夫婦で参加
●島根県支部
熱心な姿勢に感動。通りすがりの方も快くリーフレットを受け取ってくれました



専門職も加わって
●岡山県支部
街頭で認知症の症状などの相談もありました



サプライズに、大喜び！
●広島県支部
配布場所のブランド店が気を利かせて店をオレンジにライトアップしてくれました



徳島駅前ですだちくんと一緒に●徳島県支部
県の認知症対策普及・啓発推進月間と兼ね、大規模展開できました



松山市のデパート前で若い女性も立ち止まり
●愛媛県支部
配布中に「自分も心配なんだけど」「母を介護しています」という反応も



親子連れの参加でうれしかった●高知県支部
読売新聞の取材も受け、17名の参加者がはりきって配布しました



若い人にも大事な問題ですよ
●福岡県支部
「読んでみてください」精一杯の笑顔で渡す



大型施設の入口で2時間配布
●佐賀県支部
オレンジTシャツや横断幕効果で受け取りも良く、理解が深められていることを感じました



認知症のことを知ってください●長崎県支部
県内2カ所、総勢73名で実施。「私にも手伝わせて！」と、毎年参加者が増えています



4カ所、総勢90名参加●熊本県支部
以前より認知症に関する認知度、関心度が高まっているように感じました



本人5名も参加
●大分県支部
総勢115名での配布でした



今年も配布者の方が多い?
●宮崎県支部
約30名の参加者。ちびまる子ちゃんのバッグ大好評!!



旅行者も真剣に受け止めて…
●鹿児島県支部
横断幕とオレンジ色のTシャツが、私たちにも勇気をくれました



独自作成したうちわを活用して活発な啓発活動●沖縄県支部準備会
認知症の本人や看護学生を含む20名が、オレンジTシャツを着て